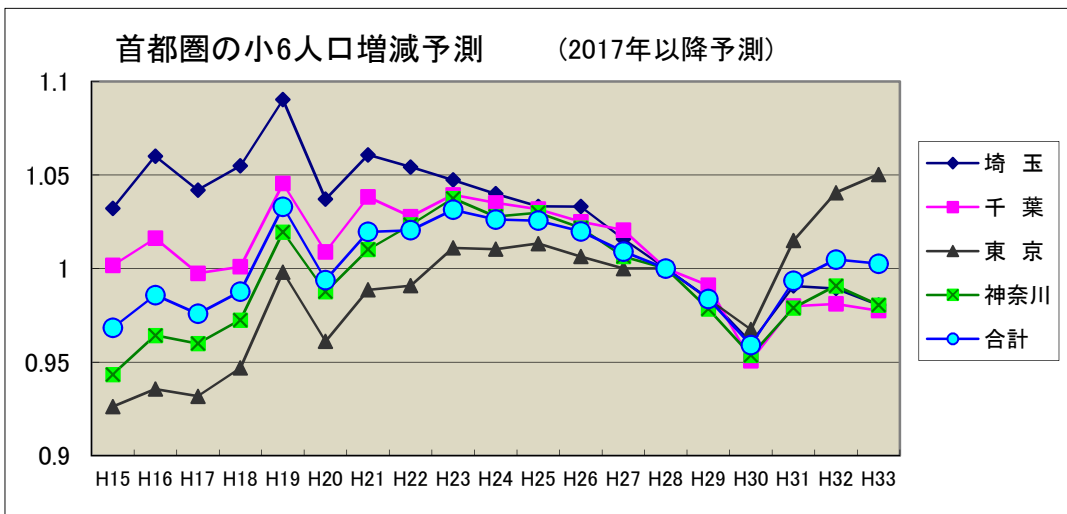


# 7月四模試にみる中学受験志望状況

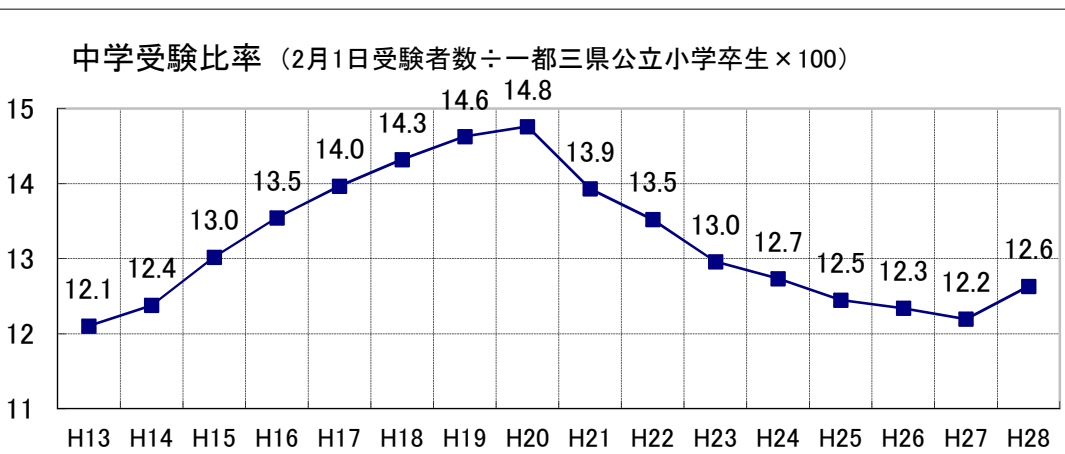
表1: 7月四模試受験者数(四模試参加者数)前年比

	16年7月	15年7月	前年比
日能研	11,393	11,455	99.5%
首都圏模試	11,499	11,256	102.2%
四谷大塚	13,743	13,784	99.7%
サピックス	5,442	5,270	103.3%
四模試合計	42,077	41,765	100.7%

グラフ1: 小6人口推移



グラフ2: 中学受験比



## ■ 7月四模試受験者数前年比より、2017年入試受験者数は「受験者数は横ばい、または微増」と予測

4月の時点では、2017年入試受験者数は「受験者数は横ばい、または微増」と予測しました。7月四模試の受験者数(模試参加者数)前年対比は100.7%で、2017年入試受験者数の予測も同様の結果となりました。

9月以降の四模試では、模試受験者数も多少増加し、予測精度も高くなるとは思いますが、**予測に大きな変動はない**と思います。(表1参照)

● 4月の時点では2017年入試受験者数は「受験者数は横ばい、または微増」と予測

4月の時点では、2016年以前の入試受験者数の推移や2017年の小6人口や景気の動向などから分析を行い、2017年入試受験者数は「受験者数は横ばい、または微増」と予測しました。

ところで、首都圏における2017年入試の対象となる小6人口(=公立小卒者数)は、前年比で1.6ポイントの減少となるのですが、その減少を補った要因は何でしょうか。(グラフ1参照)

● 小6人口が減少でも「受験者数は横ばい、または微増」と予測した理由

首都圏における2017年入試の対象となる小6人口(=公立小卒者数)は、前年比で**1.6ポイントの減少**となるのですが、それにもかかわらず、「受験者数が横ばい、または微増」と予測したのは、中学受験に参加する小学6年生の割合(中学受験比率)の増える傾向が、2016年首都圏中学入試の分析で分かったからです。

リーマンショック以降、中学受験比率は減少し続けてきましたが、2015年入試では中学受験比率は、ほぼ横ばいとなり、**2016年入試では増加に転じました。中高一貫校に対する人気**が回復し始めたようです。(グラフ2参照)

2002年の「ゆとり教育」で中学受験ブームが始まって、中学受験比率が増加し、2008年のリーマンショック以降は中学受験比率が減少続けました。2016年入試で中学受験比率が増加し始めたのは、「**中・高と大学で行われる教育改革(グローバル教育)**」に対する**中高一貫校への期待**があるのではないのでしょうか？

「ゆとり教育」の時も、公立中学・高校では大学受験に対処できないのでは？という不安と中高一貫校に対する期待が原因の一つと言われています。

● 2017年入試はグローバル教育がキーワードとなりそう

グローバル教育に適した生徒を採用するための英語入試や適性検査を含む思考力・判断力・表現力に関連する入試を採用する中学が増え、それらの試験を受験する受験者数も増えていくことが考えられます。また、「グローバル教育」を積極的に導入する学校も多くなりそうです。